

## お話をよく聞く子どもを育てる

聞いたこと、感じたことを自分のことばで表現する。

外遊びから帰ってきた園児が私の顔を見るなり駆け寄ってきました。園児は私に何かを伝えようと、すごい勢いで話をしてくれませんが、伝えたいという思いに言葉が追いついていないようで、お話の内容がよくつかめません。「うん、うん」と話の調子を合わせながら聞いていると、その子は一通り話した後にはニコッと笑って、小さな手をそっと聞きながら私の前に差し出しました。その手の中には2匹のダンゴムシでした。ダンゴムシを見た瞬間に、私にもようやく園児が話してくれたお話の内容がつかめてきました。

お友だちとお庭で遊んでいたらダンゴムシを見つけたので、勇気を出して触ってみました。触ったこと、触れたこと、そしてついにつまめるようになって、手の中に2匹いることを皆に伝えたくて、お友だちを探して歩き回っていたようなのです。そうしていたところ園長先生と目があつたので、急いで駆け寄ってきてくれたのでしよう。

「すごいねー」と感想を述べた後に、虫が死んでしまわないだろうか？ もとの庭に帰してあげるのだろうか？ などといろんな心配も頭をよぎりましたが、園児の「言葉も追いつかないほどの一所懸命な表現」に微笑ましい気持ちになり、園児が次のお友だちを見つけて走り始める姿を見送りながら、心配事を伝えるのも忘れてしまいました。

幼児期の終わりまでに育てて欲しい10の姿（幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領）に

「言葉による伝え合い」

先生（保育士等、保育教諭等）や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

という姿が書かれています。また、「まことの保育」の保育目標には、

「お話をよく聞く子どもを育てる」

と聞いたこと、感じたことを自分のことばで表現する」

と書かれています。共通しているように思いますが、もし10の姿とまことの保育の目標の違いを見つけるとすれば、まことの保育における「お話を聞く」という姿には、「仏様のお話」を園児も保育者ともに聞くという姿が含まれているということでしょうか。

しかし一方で、「不可称不可説不可思議」仏様のはたらきは言葉で語り尽くすことができない」とも言われます。まさに言葉が追いついていないのです。言葉が追いついていないからこそ、言葉では表現しきれない、精一杯の言葉に込められた大切な「心」を聴くことが大事なのです。言葉が追いつかないような、言葉では表現できないような驚きや発見。心で感じたことをなんとか伝えたいと試行錯誤する園児たちの姿を大切にしながら、園児たちも保育者とともに、お話の「心」を聴く保育を大切にしたいと願っています。

教育原理委員会 加藤泰和